

居合道 だより

第171号



居合段位道審査会



はじめに

初秋の風が肌に冷たく感じられた先月21日の朝、道ばたのあちこちに咲く彼岸花を見ながら福岡武道館に向かった。

半年ぶりの公式行事、秋の県居合道審査会のためである。コロナ禍の中での初めての運営に思いを巡らせながら、彼岸になると待っていたかのように突然咲く彼岸花の不思議も感じハンドルを握っていた。

審査会まで満足な稽古が出来なかった不安を抱えたまま、それでも多くの剣友が挑戦してくれた。

コロナ対策で当日の準備運動や稽古も出来ない状況の中、自然発生的に、級受審の小学生をリーダー役にして役員、審査員は1階会場の床で、その他の受審者は2階観覧席でお互いに向き合い、スマホから流れる伴奏に合わせて一斉にラジオ体操を行った。終わった後、全員からお互いを励まし合うような大きな拍手が湧き上がった。

会場全体が温かい雰囲気包まれた。これで少しは受審者の心と体をほぐせたのではうれしく感じた一瞬だった。

さて肝心の審査内容かというと、たしかにいつもより稽古不足があちこちで見受けられたが、彼らはこの状況下で今出来ることを精一杯やってこの日に望んだのである。

厳しい社会状況の中、それでも居合が出来る喜びが全員の顔に溢れていた。何のために居合をやるのか、そんな屁理屈なんかどこかに吹っ飛んでいた。皆の顔に大輪の花が咲いていた。

病気や怪我に負けるな！コロナなんかに負けるな！今出来ること、今やりたいことを精一杯やってみろ！人間修行なんぞなんのその。そんなものは自然と後からついてくる。そんな乱暴な楽しい気分になった。

ところで彼岸花は曼珠沙華ともいう。なんとも妖しくもの哀しい名前である。花が散った後、忘れられた頃瑞々しくつややかな葉っぱを出す。そして彼岸花は彼岸になると全国ほぼ一斉に咲く。桜の花は桜前線に乗ってみんなから注目を浴びながら、一ヶ月以上かけて北上しながら咲いていくのにである。

そうすると彼岸花は季節を知っているだけではなく、もしかしたら暦も知っているのかと疑ってしまう。

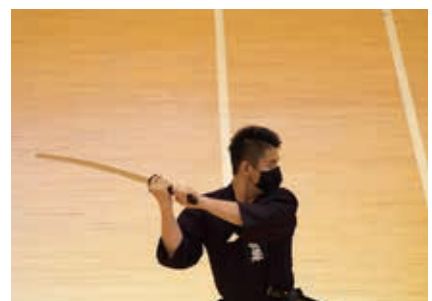
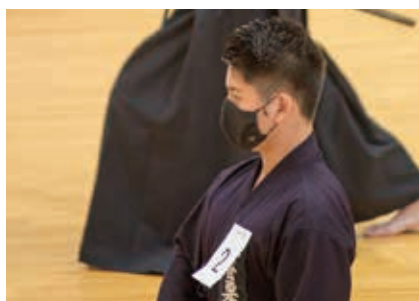
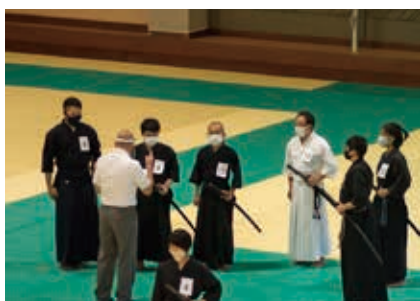
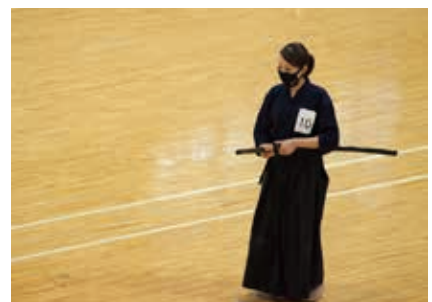
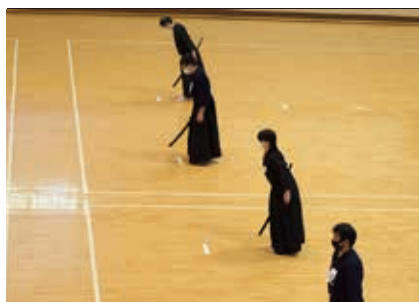
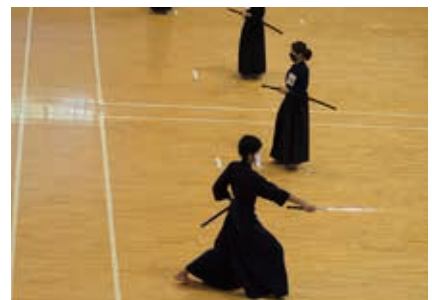
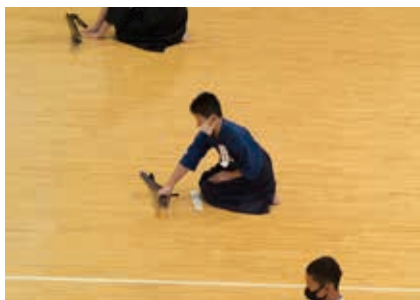
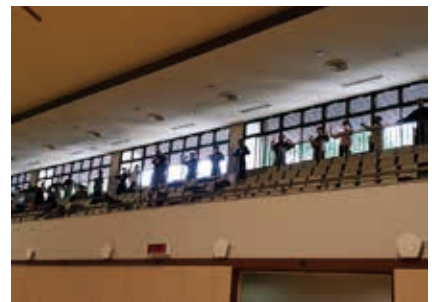
いずれにしても、また来年の彼岸になると艶やかな彼岸花が一斉に大輪の花を咲かせてくれるだろう。その花言葉のひとつ「情熱」。

未来に希望をつなぐように。

主な活動

主な活動

9月21日（月祝） 福岡県居合道段位審査会 福剣連 武道館





全国居合道審査会（京都市武道センター）にて七段昇段

福岡武道館居合道部 池田 勉

登山が趣味の私は、山の会の先輩が宗像市の体育館で「居合」を始めると聞き見学に行きました。

宗像まで来なくても大濠の福岡武道館が有ると教えられて翌日、自宅から歩いて 10 分ほどの福岡武道館居合道部を訪れて、居合道教室の第 13 期生として平成 9 年 6 月に入会致しました。

最初にご指導して頂きましたのは、故坂井新策先生でした。中学 3 年の時、剣道を町道場に 1 年通いましたがその時以来の道場で、礼法、立ち振る舞い、模造刀の扱いと大変苦労しましたが、教えてくださる先生も大変な労力を使われたと、今、感謝しております。

その後は、福岡武道館居合道部の代表指導者の三角康雄先生の厳しいご指導を受け、それでも週 1 回の練習では不足と、三角先生と共に数人の部員で、明德館の波止先生の道場に参加稽古を致しました。

県の初稽古会、地区講習会、伝達講習会等々、迫野先生、井手先生、小田先生を始め諸先生方、高段者の教えをメモしたものが日ごろの稽古に大変役立って居ります。

京都の審査会場は、時間厳守、全員マスク着用、会話無く、指定場所での待機、今までの審査会場とは異なり雑音がなく、荘厳、厳粛、緊張のより高まりを感じました。

審査は、組ごとに行われ演武後は元の席に戻り‘待機’、演武者の後ろ姿を見ながら緊張の増すなか、これまで業ごとに指摘された事項を思い出していました。

特に今回はホテルで素振りをしたのみで臨んだため「今日は最後の見取り稽古」と心に言い聞かせて最後の組の出番を待っていましたが、すると自然と肩の力が抜けて、自分に納得できる演武が出来たと思っています。

多くの先生方のご指導、同輩、後輩の方々のご協力に感謝申し上げます。



七段審査合格昇段

武揚館道場 高嶋 憲一郎

まずは此度の居合道七段に昇段するにあたりまして、福岡県剣道連盟居合道部の諸先生方、会員の皆様、この場を借りましてお礼申し上げます。

九州国際大学居合道部から数えて二十数年になりますが、まさか私がここまでになるとは思っておりませんでした。

さて京都府にてコロナ渦中での審査でしたが、一言でいうと今迄の経験が全く通用しない審査でした。後で県の審査会も同じであると伺いましたが、会場入口の検温から始まり、着替えると観覧席で待機し、一度も刀を抜くことなく審査会場の決められた席に座り、受審終了後も元の席に戻り、五組終了後直ちに番号が発表され、すぐに観覧席に戻り着替えて会場から退出という流れでした。そのような状況でしたので自分の番号を間違える事はありませんが、何も考える間もなく終わってしまったというのが正直な感想です。ただ今思えば審査の流れに動揺せずにのれた事がこの結果につながったように感じております。

ところで私は武揚館道場にて末次正尚先生の指導を受けておりましたが、生前、私が五段の時に「高嶋を七段にする、親父と約束した」と言っていました。当時はまだその言葉の重みを感じておりませんでした。あれから色々な事が次々に起こり、もうここまでかと何度も自問しましたが、今私が居合を続けていられるのは、この言葉があったからです。おかげさまで先生との約束を果たすことができたのは何物にもかえがたい宝となりました。それと共に武揚館道場居合道部の末次輝先生をはじめ、師範であられる小田信秋先生に道場で汗を流す仲間がいて、それを支えてくださる多くの方々のお陰でここに立っている事に感謝しております。今は生活に追われ思うような稽古もできず苦しいところもありますが、コツコツと地道に精進してゆきたいと思います。まだまだ若輩者ではございますが、今後共変わらぬ御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



七段昇段にあたって

尚武会 藤本 旨雄

令和2年8月30日の京都府で開催されました居合道七段審査会に於いて七段へ昇段させていただきました。

これも偏に、ご指導いただきました諸先生方のおかげと心より感謝しております。誠にありがとうございました。

私が居合道を始めた切っ掛けは、私が20歳の頃、父と共に日本刀に興味があり、父が井尻にある稲津先生の精武館道場にて稽古をしていたため、父に附いていき居合道の見学をしたのが始まりです。

稲津先生に入門し稽古を始めました。初段、二段、三段と昇段して行くうちに稲津先生の紹介で福岡居合道同好会の岩本幸利（範士八段）、川本信康（教士七段）先生のご指導を父と一緒に仰いて稽古していました。

父（教士七段）が福岡居合道同好会の分室として春日居合道同好会（のちに尚武会に名称変更）を立ち上げ、岩本先生にもご指導に来ていただき稽古をしていましたが、私の仕事が忙しくなり、また、鹿児島への転勤等があり稽古時間があまり取れない要な状態が25年ほど続き、定年退職を期に再度尚武会に入会し稽古を再開しました。

稽古再開後、六段に挑戦していましたが、思うような結果が出ませんので、糸島錬心館の井手友太先生（範士八段）にご指導をお願いして稽古を見ていただくようになり、錬心館にて井手先生のほか、國方、川路、両先生にもご指導をいただき、平成25年11月に六段を拝命し、さらに七段を目指してご指導いただいたおかげで合格いたしました。

今後は後進の指導を行いながら体の続く限り精進して更なる高みを目指したいと考えておりますので引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

六段合格者

尚武会 森 重成

編集後記

無事審査会も終わり、このコロナ下で十分なソーシャルディスタンス、感染予防を徹底した審査会運営はまた違った緊張感を生んだことでしょう。

受信者の感想を聞くと一様に「緊張で頭が真っ白」「口から何か出てきそう」などの言葉を聞きました。

小学生が「ラジオ体操知らなかった」と言っていました。これもまた移り変わりなのでしょうか。

先日居合道の仲間に誘われて、ヨガに参加してきました。

腹回りは太く体は全身カチンコチンで、なんとかしなきゃなあ～って思っていたのでいい機会と思いましたが、この硬さは一筋縄じゃいきません。多分ほぐれるまでに4～5年はかかりそうです。

興味深いのは瞑想と体の使い方と呼吸法、呼吸法は武道に通じるものがあるのかもしれない。体に適切に酸素を送りながら動かしたことのないようなところまで動かすのは大変な作業でした。

瞑想は本番前に緊張をほぐし、集中するにはいいのかも。

意外と「筋肉痛しないなあ」って高を括っていたら案の定3日目あたりに思わぬところが痛～い！体を柔らかくするのになぜ筋肉痛～～？？？（悲鳴）

年寄りの冷や水なのは言うまでもありません。しかーし！居合の上手な先生方は皆様体が柔らかいので、私も居合が柔くしなやかになるようにしばらく続けてみようと思います。

（痩せようとかは全く思っておりませんので念のため）



© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第171号 令和2年10月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW